

平成28年度

「学校関係者評価報告書」

大阪市立西野田幼稚園

平成29年3月

1. 総括についての評価

平成28年度については、年2回の幼稚園評価保護者アンケートと行事（運動会・作品展・生活発表会）の折に保護者アンケートを実施した。年度末アンケート結果は提出率約97%であった。「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が88%以上であった。

保護者アンケート結果から年度目標は、達成することができた。

このアンケートの数値結果から、学校運営に関する計画に基づき教育活動を進めてきたことから、一人一人の子どもに様々な育ちが育まれたことや取り組みについての評価とみなすことができると思われる。

中間目標の達成度については、【視点】学力の基礎の向上では、中間目標の推移を調べる2項目において、数値目標を達成することができた。【視点】道徳心・社会性の育成では、5項目とも毎年前年度より向上させることはできなかつたので、数値目標を達成することはできなかつた。しかし4項目において、最終の28年度の数値が一番高く、一定の成果があったと評価されていると思われる。前年度と比較する評価方法が影響していることも考えられ、評価方法を検討していきたい。しかし、課題として、項目「保護者の方は、防災・安全教育について関心をもつようになりましたか」が年々数値が減少していることが明らかになった。子どもたちの命を守るために大変重要な内容であるので、取組みの工夫し、保護者の意識や関心を高めていく必要がある。

【視点】健康・体力の保持増進については、28年度単年度についての資料ではあるが、数値目標を達成することができた。

2. 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の基礎の向上

① 毎学期の子どもへの聞き取り調査やチェックリストで、幼稚園の遊びの交流活動「なかよし集会(全園児の集会遊び)」「なかよしタイム(同年齢の交流遊び)」「すくすくタイム(異年齢の遊び)」の取り組みが楽しかったという割合を、2月末には90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

② 保護者アンケートで、「幼稚園の遊びや生活の中で、多様な人とかかわる機会が多くあった」という項目で「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答する割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

③ 年度末の保護者アンケートで、「お子さんは、入園・進級当初よりも様々な人とかかわる機会が多くあった」という項目で「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」取る回答する割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

④ 教職員は、人とかかわる力の育成につながる遊びの環境や指導の工夫に努め、自己評価の達成度を85%以上にする。

(マネジメント改革)

⑤ 年度末の保護者アンケートで、「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目「あてはまる・どちらかというにあてはまる」と回答する割合を、80%以上にする。

(カリキュラム改革関連)(グローバル化改革関連)(マネジメント改革関連)

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、保護者アンケート結果において5項目中5項目において、数値目標を達成することができた。

引き続き継続して取り組み、幼稚園生活のあらゆる体験や経験を通じて、人とかかわる力の育成や豊かな言葉を育てていきたい。

年度目標：道徳心・社会性の育成

① 年度末の保護者アンケートで、防災・安全教育の次の項目について「あてはまる・どちらかというにあてはまる」という割合を、80%以上にする。

- ・お子さんは、生命を守るためにどのように行動すればよいか関心をもつようになった。
- ・保護者の方は、防災・安全教育について関心をもつようになった。

(カリキュラム改革関連)(ガバナンス改革関連)

② 保護者アンケートで、次の項目について入園・進級当初に比べて「あてはまる・どちらかというにあてはまる」という割合を、80%以上にする。

- ・お子さんは、幼稚園のきまりを守っている。
- ・あいさつを進んでしている。
- ・幼稚園には、いろいろな思いの友達がいることを理解し、認め合おうとしている。

(カリキュラム改革関連)

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、保護者アンケート結果の5項目中5項目において、数値目標を達成することができた。

また、前期と後期のアンケート結果を比較したところ、後期の結果が低くなった項目が3つ(「き

まり」「あいさつ」「認め合い」)あった。数値が低くなった3項目で育てられる力は、人とかかわることで育まれる気持ちや心であったり、規範意識や問題解決能力・主体性などである。幼児期にこそ身につける非認知的能力なのであるが目に見えにくい力ともいえ、これからも根気強く取り組んでいきたい。項目「保護者の方は、防災・安全教育について関心をもつようになりましたか」は、子ども達の命を守るためには大変重要な内容であり、取り組みの工夫をし保護者の意識や関心を高めていく必要がある。

年度目標：健康・体力の保持増進

① 保護者アンケートで、次の項目について入園・進級当初と比べて「あてはまる・どちらかという」とあてはまる」という割合を80%以上にする。

- ・手洗い・うがいの習慣が身についてきている。
- ・歯みがきの習慣が身についてきている。
- ・体を動かす遊びが好きである。
- ・食べ物(特に野菜)に関心をもつようになった。

(カリキュラム改革関連)

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、保護者アンケート結果において、4項目中4項目において、数値目標を達成することができた。

また、年度目標の指標にしていなかった項目が達成できなかったが、その1項目については、減少したのではなく、年度当初と割合が同等となったことから、達成できなかったとする判断となった。周知不足や、設問が抽象的であったのではないかとすることも考えられる。そこで、子どもたちが存分に心と体を動かした姿や取り組みについての周知の仕方の工夫を図り、設問内容も再考していきたい。

視点健康・体力の保持増進の分野は、家庭の協力、連携が欠かせないので、協力してもらいやすい取り組み内容の工夫もしていきながら、引き続き取り組んでいきたい。

3. 今後の学校運営についての意見

○達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

○「運営に関する計画」(最終評価)の道徳心・社会性の育成について、多くの意見を頂いた。道徳心・社会性の育成の保護者アンケート項目のうち3項目「きまり」「あいさつ」「友達を理解し、認め合う」の結果が、年度目標は達成したが、中期目標においては毎年前年度より向上させるという目標に達していなかった。中期目標の目標設定が高かったのではないかと考えられるが、今後の課題として取り組んでいく必要があると思われる。

○「きまり」「あいさつ」「友達を理解し、認め合う」の3項目のアンケート結果を平成28年度の前期と後期を比較してみたところ、後期の回答割合が減っていた。それについてどう捉えるのかの検討がなされた。

→「あいさつ」について

- ・保護者の立場からは、子どもたちのあいさつ週間の取り組みから、送り迎えをしている時に前期より後期の方があいさつはできていると感じている。公園でもあいさつをしてくれる保護者が増えた。アンケートでは結果が出ていないと感じる。
- ・毎年同じアンケート調査をして同じ結果が出たとしたら、入園・進級当初は、子どもたちもはりきってあいさつしているが、だんだんおろそかになってくるのが普通なので、このような結果となるのではないかと。

→「友達を理解し、認め合う」について

- ・成長とみることができる。自分と違う子がいるということが分かってきた。認め合おうとして

いるが、まだまだ認め合うところまで達していない。認め合うということは大変高度である。この問い自体がどうなのか。「やさしさや思いやり」の項目の回答割合は増えていることから、幼稚園での指導による結果であり、教育の成果が出ている。幼稚園教育の成果があるのだが、反映するようなデータ結果が出なかったと考えられる。

- 園舎裏の土地をぜひとも活用できるようにしてほしい。子どもたちが自然体験できるような畑を作ってはどうか。PTAや地域の方が子供たちと一緒に畑での体験ができるように、次年度は計画し取り組むことを要望する。